

駒輸入再開は時期尚早



輸入された駒の中から見つかったクイーン（中央）（写真＝AP）

BSQ問題

政府、危険駒の判断をせず

米議会から反発も

米産駒輸入から特定危険駒のクイーン（Q）が見つかった問題で、政府は現段階での輸入再開は困難として、米国側に理解を求める考えを固めた。しかし米議会ではこうした日本政府の方針に対して不満が高まっており、交渉が難航するのは避けられないとの見方が広がっている。

詰将棋22号、関東上陸へ

超大型で非常に強い詰将棋22号は、七月中旬に横浜付近に上陸する恐れが強くなってきた。すでに一部の地域は暴風域に入り始めており、捨駒で河川が氾濫するなどの被害が出始めている。気象庁では長手数駒の詰手順による災害の危険があるとして、厳重な警戒を呼びかけている。

気象庁によると、詰将棋22号は超大型で非常に強い勢力を保ったまま、太平洋上を北東に進んでいる。中心の手数は一五二五手で、中心から半径一〇〇キロ以内では、手数五〇〇手以上の長手数となっている。22号の接近により、各地ではすでに被害が広がっている。埼玉県川口市では、強い馬鋸で裏山が崩壊する

危険があるとして、付近の住民が自主的に避難している。また京都市内でも、捨駒で堤防が決壊する恐れが出てきたため、現在土嚢を積み上げるなどの対策に追

せたくないのが本音だ。しかし簡単に輸入再開を認めれば、再び危険駒の混入が発生したときに責任問題に発展する可能性があり、再開時期を慎重に判断したいとしている。

これに対しフェアリー界からは、検査態勢を確立したうえで、正式にQを輸入してほしいという声も高まってきている。フェアリーグループにとって、Qが使用

できないのは「死活問題」（担当者）。当面は中国産の安価なバオなどで代用しているが、やはりQが全くと使えないのは、長期的には大きな打撃だ。このため政府内では、逆さ使用に限定する形で、グラスホッパーとして輸入を認めてはどうかという意見も出ている。

一方米議会では、日本政府の対応にいらだちを表す動きが強くなってきている。保守強硬派のギャンビット議員は「我々は建国以来Qを使い続けているが、それが問題になったことは一度もない。日本政府は過剰に反応しすぎだ」と強い不満を表明した。こうした声を受け、米当局者も強い態度で交渉に臨むのは必至と見られ、日本側の主張が理解されるかどうかは微妙な情勢だ。

昨日行われた記者との懇談の場で、政府高官は「もし詰将棋作品でQが使われているのが見つければ、国内の詰将棋市場は大混乱に陥る。安全な作品を解きたい、という国民の意識は依然高い」と述べ、現状では輸入再開は時期尚早であるとの考えを示した。先日、特定危険駒として政府が詰将棋での使用を禁じているQが輸入駒から見つかった影響で、将棋者の不信感が未だ根強いとの認識を示したものだ。

政府側としても、米側との駒摩擦をこれ以上長引かわれている。一帯では連取りや持駒交換が断続的に起きており、予断を許さない状況だという。

気象庁の予報によると、22号は今後も非常に強い勢力を保ったまま北上する見込み。現在のスピードを維持した場合は、七月十六日前後に、横浜周辺に上陸する可能性が大きくなってきている。当日は長い時間にとたつて詰手順が続くことが予想され、気象庁では紛れに陥らないよう厳重に注意するように呼びかけている。

● 作意偽装

岡山県内に住む男性が、過去少なくとも二十年以上にわたって、絶妙の中合や不成などを密かに逃れ手順として作品に混入させ、巧妙に作意を偽装していたことが明らかにされた。このような偽装が行われた作品は数百に及び、被害者はのべ一万人を超えるものと見られている。特に平成元年には、わずかに三手詰で九十八人が解答を誤る大惨事が起きたことが分かっており、どのような経緯でこれほどの被害を出すに至ったのか、当局では当時の経緯を慎重に調べている。

● 余詰放置

広島市では、数年前から詰将棋活動を始めた男性が、自作にまだ余詰が多数残っているのを知りながら一年近くにわたって放置したうえ、推敲せずにそのま

作意偽装・余詰放置・……

詰将棋、多様化する手口

原則は自己責任

いたと見られる。当局では創作姿勢や作品の管理体制に問題があるとして、男性から詳しい事情を聞いている。取材に対しこの男性は、「いつか直せばいいと思いつながら、そのままになってしまっていた。今は反省している」などと話している。

● 自己責任

将棋者生活センターには、作品の多様化とともに、相談や苦情の電話も増えてきている。特に、「全問正解を確信して解答を出したのに作意偽装に引っかかり、解答競争から脱落してしまった。何とかならないか」という問い合わせが多いという。これに対しセンターでは、「自己責任という原則を忘れないで」と呼びかけている。

ま投稿しようとしていた疑いのあることが明らかになった。この男性は余詰のある作品を他にもいくつか保持しており、これらも適当な時期に投稿しようとして

第22回

詰将棋全国大会

平成18年7月16日（日）12:30～

横浜ワールドポーターズ6階

